

## 自己評価報告書(最終報告)

報告者

生活・健康系コース(保健体  
育) / 木原 資裕

### ■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

#### I. 学長の定める重点目標

##### I-1. 教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが(平成24年8月28日)、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

#### 1. 目標・計画

教員養成大学教員として、最も重視すべきは、担当授業実践の成否であると考えている。

①授業内容: 内容充実を図りつつ、できるだけ、具体性を持ち、わかりやすい表現に努める。

②授業方法: 講義に受講生を飽きさせず、興味と関心を持たせるように配慮しつつ、課題発表とディスカッションの時間を設ける。

③評価: 提出レポートの内容評価による。レポートを半期に2回は提出させ、合格レベルに達していない者には、再度、再々度、提出させ、指導を行う。

#### 2. 点検・評価

上記の年度目標を具体的な形で表す試みとして、「初等中等教科教育実践1」において、各受講生レポートおよび試験内容を顔写真入りの冊子とし、各自が学んだ内容の共有化と授業成果が見えるものとした。この冊子を通して、授業内容および方法を省察することができ、さらなる授業の充実が期待できる。

## Ⅱ. 分野別

### Ⅱ－1. 教育・学生生活支援

#### 1. 目標・計画

- ①学生が自分の「得意な事」を見つけ、深めていけるよう、授業、修士・卒業論文の指導にあたる。
- ②剣道部顧問・監督として、剣道部の活動に積極的に参加し、学生・院生の心身鍛練の強化に当たる。
- ③学生の進路、悩み等の相談に応じられるコミュニケーションをとれる機会を多くもつようにする。

#### 2. 点検・評価

- ①私が担当するM2ゼミ生全員は修士論文に関連する研究テーマで日本武道学会および中四国武道学会において、個人発表を行い、その成果をもとに修士論文を作成した。
- ②剣道部顧問・監督として、できるだけ、日常の部活動に参加し、指導を行った。
- ③ゼミの歓迎会・送別会の行事を実施するとともに、ゼミ生とのコミュニケーションを図った。

### Ⅱ－2. 研究

#### 1. 目標・計画

年間1回の学会発表ができるよう研究成果をまとめ、さらに、論文として年間1本の全国レベル研究誌に投稿する。

#### 2. 点検・評価

日本武道学会で共同研究を含め、3本の学会発表を行った。今回は学会記念大会として国際武道会議も行われ、プロシーディングを3本投稿した。また、中学校武道必修化にあわせて、全国教育系大学剣道連盟のメンバーとして『これならできる剣道』（スキージャーナル発行）を執筆・編集した。

## Ⅱ－3. 大学運営

### 1. 目標・計画

- ①委員として学内の各種会議に出席し、職務を遂行する。
- ②コース会議，部会議，教授会，全学集会へ公務が重複する以外は出席する。
- ③大学運営に関する問題点・意見・発案を各種委員等で積極的に提言する

### 2. 点検・評価

- ①②③ともに積極的に発言し、職務を遂行している。

## Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携，国際交流等

### 1. 目標・計画

- ①附属学校での研究会および附属学校との懇談会に積極的に参加し，相互の教育・研究の情報交換，討議を行い，その発展に努める。
- ②教育支援講師，アドバイザーなどとして，積極的に学校現場，地域主催研修会等に出向き，指導・助言を行う。（社会貢献）

### 2. 点検・評価

- ①に関しては、附属中学校での総合選択授業で「剣道」を担当し、また、教育実践フィールド研究のコース担当者として、その任に当たった。
- ② 大学開放推進事業として、小中学生を対象にした「のびのび剣道教室」を開催した。

### Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

学生支援委員会の副委員長を担当した。